

せいしょかしよ そうせいき しょう  
聖書箇所：創世記23章

◆今日のみことば

「その後アブラハムは、マムレに面するマクペラの畑地の洞穴に、妻サラを葬った。マムレはヘブロンにあり、カナンの地にある。」創世記23章 19節

◆メッセージ

みなさんの中で愛する家族が死んで葬式に出たことのある人がいますか。とても悲しく辛いことですね。私も小学生の時にその経験をして、生きることと死ぬことについて考えるようになりました。

人は神さまからいのちを与えられ、神様がお決めになった時にそのいのちを終えます。葬式は愛する人を思ってする最期の別れの時であり、自分もいつか死ぬことを心にとめ、私たちにいのちを与えお取りになる神さまを礼拝する時です。墓地は遺体や遺骨を納め、天国に行った人を思い浮かべて神様を礼拝する場所です。

信仰の父と呼ばれるアブラハムは、75歳の時にあなたを通して多くの国民を祝福するという約束を信じて、神様に示されたカナンの地に行きました。妻のサラはアブラハムと喜びも悲しみもともにして、祝福された日を過ごし、127歳で死にました。その時アブラハムは「愛する妻のために悼み悲しみ、泣いた（創23:2）」のでした。辛いこともたくさん味わったアブラハムですが、このときほど悲しかったことはありませんでした。

アブラハムは、神さまが彼とその子孫に与えると約束されたカナンの地ヘブロンに妻サラを葬ることを決心し、土地の人たちに墓地を譲ってほしいと申し出ました。人々は自分たちの最上の墓地に葬るように勧めてくれましたが、交渉の末にマクペラの畑地と洞穴を自分のたちの墓地として購入して、そこに妻サラを葬ったのでした。約束の地カナンを手に入れることはありませんでしたが、神さまのご計画は彼らをもっとすばらしい天の都に導き入れることだったのでした（ヘブル11:16）。サラが埋葬されたマクペラの洞穴に、その後アブラハム、その子イサクと妻リベカ、孫ヤコブと妻レアも埋葬されました。

その墓は今、世界遺産に指定されて、訪れる多くの人たちに彼らの地上の歩みを祝福し、死んで葬られた後は天の都に導き入れられた神さまを証しています。

◆お祈り

「アブラハムとサラのように真の神さまを信じて従い、自分の生涯と死を通して神さまの素晴らしさを証しすることができますように。」

（生駒めぐみ教会牧師 中谷美津雄）